

令和7年度

奈良県立青翔中学校入学者選抜検査問題

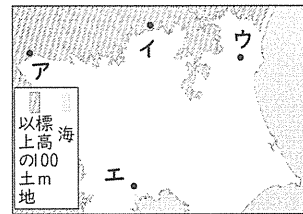
適性検査Ⅰ

注 意

- 1 指示があるまで開いてはいけません。
- 2 解答用紙は、2枚あります。それぞれに、受検番号を忘れないように書きなさい。
- 3 解答用紙の※印のところには、何も書いてはいけません。
- 4 答えは必ず解答用紙に書きなさい。

一 翔太さんと花子さんのクラスでは、修学旅行で訪れる予定の関東地方について学習を進めています。各問いに答えなさい。

(一) 二人は、訪れる予定の茨城県水戸市にある偕楽園が梅の名所であることに興味をもち、関東地方の梅の開花時期を調べました。資料1は関東地方の一部の範囲に、東京・前橋市・宇都宮市・水戸市の観測点のおおよその位置を示したものです。資料2の①～④は、その4つの観測点の、2024年の開花日・2023年を基準とした平年の開花日との差・2023年を基準とした2023年の開花日との差を示したものです。□内の文は、二人が調べた内容をまとめたものです。資料1と□内の文を読み、偕楽園がある水戸市の観測点の位置を資料1中のアイエから一つ選び、その記号を答えなさい。また、水戸市の観測点における2023年の開花日を資料2と□内の文を参考に答えなさい。



【資料1】

	基準日 2024年の 開花日	平年*の 開花日より	2023年の 開花日より
①	1月26日	15日早い	5日早い
②	2月4日	2日早い	16日早い
③	2月1日	2日早い	9日早い
④	1月9日	13日早い	12日早い

*平年：30年間の観測から算出した平均

【資料2】

- 東京・水戸市の観測点は、標高100mより低い場所に位置する。
- 東京の観測点は、他の3つの観測点よりも南に位置する。
- 4つの観測点のうち、宇都宮市と水戸市の観測点の距離が最も短い。
- 東京の観測点は2024年・平年・2023年の開花日とも、4つの観測点の中で最も早い。
- 宇都宮市の観測点の平年の開花日は、2月10日である。
- 前橋市の観測点の2023年の開花日は、2月20日である。

(二) 二人は、東京都で国土交通省を訪れ見学する予定です。国土交通省のように法律や予算にもとづいて実際の政治を行う仕事は、三権分立のうち何権に当たるか答えなさい。

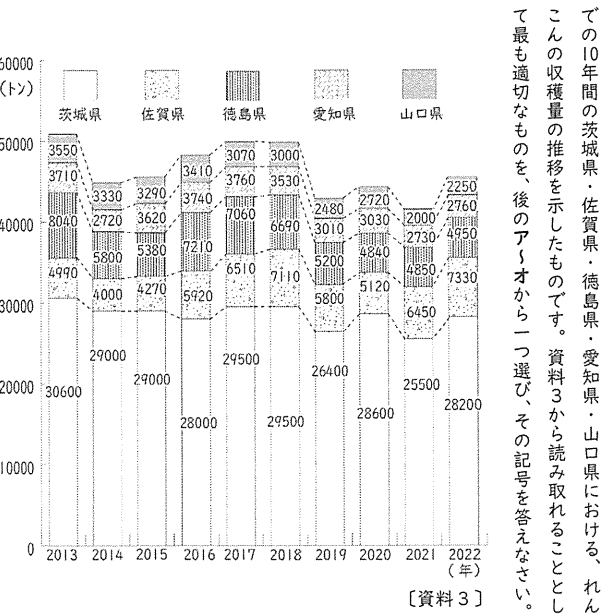
(三) 花子さんは、茨城県周辺の水銀や銅が、奈良県の東大寺の大仏づくりに使われたことを知りました。大仏づくりの事業を行った天皇の名前を答えなさい。また、大仏づくりに協力した人物を、次のアイエから一つ選び、その記号を答えなさい。

- ア 聖徳太子 イ 雪舟 ウ 紫式部 エ 行基

(四) 翔太さんは、江戸時代にそれまで発展していた京都や大阪だけでなく、江戸も文化の中心となっていたことを学習しました。江戸時代に経済的に豊かになった町人が中心となって花開いた文化の説明として最も適切なものを、次のアイエから一つ選び、その記号を答えなさい。

- ア 歌舞伎や人形浄瑠璃が人々にとって、暮らしの大きな楽しみとなった。
- イ 粘土に押し当ててつけられた文様が見られる土器が、さかんに使われるようになった。
- ウ 田楽や猿楽が能や狂言として発展し、観阿弥・世阿弥親子が活やくした。
- エ かな文字を使った物語や、宮廷の生活や自然の変化を表現した書物が書かれるようになった。
- オ 書院造という建築様式が用いられるようになった。

(五) 二人は、茨城県の特産品であるれんこんに興味をもち、全国の主要な生産地の収穫量を調べることにしました。資料3は、2013年から2022年までの10年間の茨城県・佐賀県・徳島県・愛知県・山梨県における、れんこんの収穫量の推移を示したものです。資料3から読み取れることとして最も適切なものを、後のアイエから一つ選び、その記号を答えなさい。



【資料3】

ア 山梨県の収穫量が最も少なかった年は、最も多かった年の約2割の量であった。

イ 愛知県の収穫量が最も多かった年は、最も少なかった年の約3倍の量であった。

ウ 徳島県の2020年の収穫量は、最も多かった年の4分の1以下である。

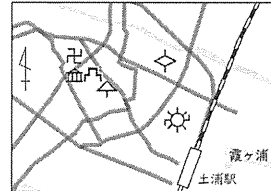
エ 佐賀県の収穫量は2014年以降、常に増加している。

オ 茨城県の収穫量が最も少なかった年は、最も多かった年の約8割の量であった。

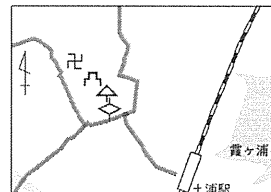
(六) 二人は、訪れる予定の霞ヶ浦の西岸に位置する茨城県土浦市中心部の歴史的变化を調べるために、国土地理院作成の地図をもとに、1905年・1968年・現在の略地図あいうを作成しました。また、略地図から読み取った内容を□内の文にまとめました。1905年と1968年の略地図から読み取れる変化として適切なものを、後のアイエからすべて選び、その記号を答えなさい。ただし、略地図あいうは、年代順の並びにはなっていません。

- 土浦市は、かつて霞ヶ浦の水運で発達し、城下町として発展した。
- 土浦市は、土浦駅以東の霞ヶ浦を埋め立てて発展した。
- 時代と共に道路網が拡充した。

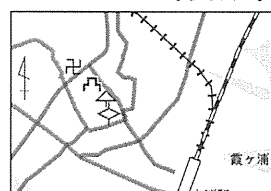
- △ 土浦城あと
- △ 裁判所
- △ 発電所
- △ 税務署
- △ 寺院
- △ 博物館
- △ 鉄道
- △ 湖沼・河川



【略地図あ】



【略地図い】



【略地図う】

- ア 土浦城が土浦駅北西に築城された。
- イ 寺院と土浦城あとの間に道路ができた。
- ウ 土浦城あとの西側に博物館が建設された。
- エ 税務署が土浦城あとの南東から、土浦城あとの西方向へ移転した。
- オ 土浦城あとの北西に寺院が建設された。
- カ 土浦城あとの西にあった博物館が移転した。
- キ 土浦駅から北東に向かい、その先北西方向へのびる鉄道が建設された。
- ク 土浦駅から北東に向かい、その先北西方向へのびた鉄道が廃止され、道路に変わった。

二 次の文章を読み、あとの各問いに答えなさい。

欧米では、日本に比べて、「自然保護」や「動物愛護」の活動が進んでいる。

特に、ヨーロッパは自然が貧相である。文明の発達や社会の近代化によって自然は失われ、自然破壊は顕在化しやすい。そのため自然を守らなければならないという自然保護の概念が育つのである。

一方、残念ながら、日本人は欧米に比べると環境問題に対する意識が低い部分もある。

日本人の自然観では、自然という概念はない。人間も、他の生き物と同じように自然の一部である。つまり **A** なのだ。

しかも、日本は自然が豊かである。いや、豊かどころではない。高温多湿な日本では、雑草はすぐに伸びてくる。害虫も発生する。日本の自然は相当に手ごわいのだ。保護するなど、とんでもない話だ。

欧米では、自然を克服しながら、人間の生活を作り上げてきた。一方、日本では、自然の中に人間の生活があった。

決して人間が上にあるわけではない。人間と自然は対等な関係である。この日本人の自然観は、世界に誇るべきものである。

しかし、一方で、それは自然に対する甘えや認識の低さにもなる。そして、「自然保護」という概念が育たなかったのである。

たとえば、日本には「水に流す」という言葉がある。②何か汚れたものも、水に流せばなくなってきたきれいになる。しかし、それは、水が豊富だから可能なのである。

また、「土に返す」「土に戻す」という言葉もある。ゴミを穴に埋めてしまえば、知らぬ間に土に戻っていく。しかし、それは、高温多湿で微生物による分解が早いから可能なのである。物が腐ったり、土に戻ったりするのは当たり前のように思えるが、冷涼な地域では有機物はいつまでも分解されない。物が腐るというのは微生物の働きが豊かだからなのだ。何か不都合なものも、豊かな水や豊かな自然が消し去ってくれる。こんな甘えが日本人にはある。

B ゴミなどを山などに捨ててしまうのだ。もつとも、昔は、ゴミはほとんど有機物だったから、捨てても分解されてなくなってしまう。しかし、現在のゴミはプラスチックなど化石燃料から作られているから、いつまでも経っても分解されない。捨てられたゴミは、いつまでもそのままなのである。

豊かな自然と、自然と共にあった暮らし。

この日本の素晴らしい財産は、残念ながら日本人の環境意識の低さにつながっている面もある。

自然は、どんなに人間が立ち向かって壊れることなく再生してくる。そして、人間の暮らしを受け止めて、包み込んでくれるような大きな存在だから、人間は自然に対して全力でぶつかっていく。それが日本人と日本の自然の姿であった。

しかし、近代になって科学技術が発達すると、自然を克服できるようになった。大きな土木機械を使えば農地や河川を思いどおりに整備できる。農薬を使えば害虫や雑草に悩まされることもない。これまで自然に苦しめられてきたが、科学技術が自然を克服するようになったのだ。

さらに、自然の豊かさに対する甘えもあるから、自然を保護しようという気持ちは高まらない。自然を破壊しても、ゴミを捨てても、自然はそれを受け入れて、いつか再生し、回復してくるような気がする。しかし残念ながら、豊かな自然の恵みを得てきた日本で、その自然が失われているのだ。

一方、ヨーロッパの自然は日本に比べて貧相である。

人は自然に立ち向かい、自然を克服することで豊かになってきたが、人間の力が大きくなるにつれて自然破壊や環境汚染が顕在化してしまった。そのため、自然を守るという発想に早い時期からとりつくことができたのである。

(稲垣栄洋『雑草と日本人』による)

(注) 貧相＝みすばらしい様子。

顕在化＝はつきりあらわれて存在するようになること。

概念＝「:とは何か」ということについての受け取り方。

自然観＝自然に対する考え方。

微生物＝肉眼では観察できないほどのごく小さい生物。

有機物＝ここでは、植物や動物の体を作っている物質。

化石燃料＝石炭や石油など、古代の生物がもとになってきた燃料。

(一) 線部①「発生」と同じ構成(組み立て)の熟語を次のア、エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 断続 イ 増加 ウ 日照 エ 校歌

(二) 線部②「水が豊富だから可能なのである」と同じ考え方ができた、水に関する慣用句を次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 湯水のように使う イ 焼け石に水
ウ 水を得た魚のよう エ 上手の手から水がもれる

(三) 文中の空らん **A** に入る最も適切な言葉を、文章から五字でぬき出して答えなさい。

(四) 文中の空らん **B** に入る最も適切な言葉を次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア そして イ けれども ウ なぜなら エ だから

(五) 線部③「日本人の環境意識の低さ」の原因として適切でないものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 自然と共にあった日本人の暮らし。
イ 豊かな自然に対する日本人の甘え。
ウ 自然は人間の所有物だとする日本人の意識。
エ 人間も自然の一部だとする日本人の自然観。

(六) 線部④「人間の力が大きくなる」について説明した次の内の文の空らん **I** および **II** に入る最も適切な言葉を、文章から **I** は四字、**II** は三字でそれぞれぬき出して答えなさい。

I が発達し、社会が **II** すること。

(七) この文章で筆者が述べている内容として正しいものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア ヨーロッパでは貧相な自然を克服するために土木機械や農薬の技術が発展し、自然保護の概念が日本より早く育った。
イ 日本では自然の中に人間の生活があるのに対し、欧米では人は自然に立ち向かい、それを克服しようと努めてきた。
ウ 「水に流す」や「土に返す」という言葉には、自然を守らなければならないという日本人の自然観が表れている。
エ 日本の自然は相当に手ごわいが、自然保護のためには害虫や雑草に対する農薬の使用をやめるべきである。

(八) 線部「豊かな自然の恵みを得てきた日本で、その自然が失われているのだ」とありますが、このことに関して、次の条件1、2に従ってあなたの考えをまとめなさい。

条件1 原稿用紙の使い方に従って、一六〇字以上一八〇字以内で、二段落構成で書きなさい。ただし、題、自分の名前は書かないこと。

条件2 第一段落には、日本の自然が失われている例を一つ書きなさい。第二段落には、自然を守るために自分はどうしていくことができるか、と考えるかを具体的に書きなさい。